



人と馬の縁が結実した勝利

梅雨の稍重馬場で圧巻の逃げ切り勝ち。父の日に史上3組目の父仔制覇で、待望の初タイトル獲得となった。

大阪杯をコースレコードで制したベラジオオペラ、有馬記念制覇以来のレースとなるレガレイラをはじめ、ドゥレツツァ、アーバンシック、ソールオリエンズ、ジャスティンパレスと6頭のGI馬が集結。春の一番は、1番人気のベラジオオペラでも単勝4.0倍という大混戦ムードの中で行われることとなった。

ゲートが開くと大方の予想通りメイショウタバルがじわりと前に出て、1~2コーナーで後続を離していった。毎日杯、神戸新聞杯と、3歳時の重賞2勝はどちらも湿った馬場での逃げ切り勝ち。午後になってようやく重から稍重に回復した芝を、前半1,000m 59秒1という絶妙なペースで逃げる。3コーナーでいったん息を入れると、好位のベラジオオペラが外から並びかけていって直線に向けた。

最内を回ったメイショウタバルと、離れた外へ進路を取ったベラジオオペラ。一騎打ちの予感は一瞬で、メイショウタバルが一気に伸びて突き放す。そのまま足取りは衰えず、最後は3馬身の差をつけてゴール。海外を含む5度目の挑戦(日本ダービーの取消を含む)でGI初制覇を成し遂げた。

「メイショウ」の松本好雄オーナーと武豊騎手、石橋守調教師、生産者の三嶋牧場の間には、切っても切れない、長く濃密な関係が横たわっていた。自身の歴代最多記録を更新する宝塚記念5勝目とした武豊騎手が「人が繋いでくれた馬の縁、馬が繋いでくれた人の縁を感じる勝利です」と感慨深げに語れば、開業12年目でJRA・GI初勝利の石橋守調教師も「涙が出ました。オーナーに少しでも恩返しができたかな」と声を詰まらせた。

さらに武豊騎手の亡き父、武邦彦氏は松本オーナーとは親友と呼べる間柄だった。またメイショウタバル自身も、父ゴールドシップとは史上3組目の父仔制覇。奇しくも父の日に、人と馬の縁が結実した宝塚記念となった。

第66回宝塚記念 (GI)

6/15 阪神競馬場 2,200m(芝・右) 晴・稍重 17頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	メイショウタバル	牡	4	58	武 豊	石橋 守	2:11.1	⑦	①①①①①
2	ベラジオオペラ	牡	5	58	横山 和生	上村 洋行	3	①	④④②②
3	ジャスティンパレス	牡	6	58	M.ディー	杉山 晴紀	クビ	⑩	⑭⑭⑮⑭
4	ショウナンラプソディ	牡	4	58	幸 英明	高野 友和	3/4	⑪	⑪⑪⑨⑦
5	チャックナイト	騾	7	58	D.レーン	堀 宣行	アタマ	⑬	⑫⑪⑫⑩

メイショウタバル
栄光の蹄跡

12

ゴールドシップ 115 M
メイショウタバル
メイショウツバクロ(フレンチデビューイ)
2021.4.20 生 浦河・三嶋牧場



牡4
武
1969.3.15生 O型
58
松本 好雄氏
石橋 守(栗東)

2025.4.5 ドバイ
ドバイターフG1
11ト — 5(115)
57^{kg}。 武 豊
芝1800良 1:46.2

2025.1.19 中京
日経新春杯GII
16ト2人 11(100)
57^{kg}。 武 豊
芝2200良 2:11.9

2024.10.20 京都
菊花賞G I
18ト5人 16(85)
57^{kg}。 浜中 俊
芝3000良 3:09.3